

1 意見 No. 2 関係

Q：今後も秋田市に「住み続けたい」と答えた人が、住み続けるために必要だと思っていることが何か、逆に「住み続けたくない」と答えた人が住み続けるために必要だと思っていることは何か。

A：・「住み続けるために必要なこと」については、「住み続けたい」・「住み続けたくない」市民ともに上位項目は同じであった。

・ただし、「住み続けたい」、「事情が許せば、住み続けたい」と答えた市民の回答で最も多かったのが「雇用の場の確保」であったのに対し、「市外で暮らしたい」、「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と答えた市民の回答で最も多かったのが「若者にとって魅力のあるまちづくり」であった点が特徴的といえる。

・この特徴は、「市外で暮らしたい」、「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と回答した10代と20代が多かったことを反映したものだと考えられる。

▽「住み続けたい」、「事情が許せば、住み続けたい」と答えた市民が選んだ「住み続けるために必要なこと」

項目	回答数	構成比(%)
雇用の場の確保	701	22.3
若者にとって魅力のあるまちづくり	524	16.6
非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	480	15.2
高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	356	11.3
子育て支援の充実	250	7.9
まちのにぎわいの創出	223	7.1
⋮	⋮	⋮
合計	3,148	100.0

▽「市外で暮らしたい」、「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と答えた市民が選んだ「住み続けるために必要なこと」

項目	回答数	構成比(%)
若者にとって魅力のあるまちづくり	98	21.6
雇用の場の確保	86	18.9
非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	79	17.4
まちのにぎわいの創出	58	12.8
子育て支援の充実	31	6.8
高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	30	6.6
⋮	⋮	⋮
合計	454	100.0

Q：10代で住み続けたいと答えた人が36.6%と前回より21.9ポイントも減っている。10代に対してどういった仮説が立てられるのか、データで示してほしい。

A：・10代で「市外で暮らしたい」、「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と答えた人が選んだ「住み続けるために必要なこと」の回答数における構成比の前回差をみると、「非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加」、「まちのにぎわいの創出」、「子育て支援の充実」が前回は大きく上回っている。こうしたことから、将来の就職、所得、子育てなどへの不安が反映されている可能性はある。

・なお、10代の次に大きな減少となったのが50代（10.0ポイント減）であり、保護者である親世代の考え方や日常の言動等に一定の影響を受けたという仮説も考えられる。

▽10代で「市外で暮らしたい」、「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と答えた人が選んだ「住み続けるために必要なこと」の前回差

(単位:%、%P)

	雇用の場の確保	非正規雇用など不安定な雇用の増加	市内の先における進学の実	子育て支援	まちのにぎわいの創出	若者魅力づくりにあつ	...	合計
今回回答構成比A	17.7	17.7	9.7	11.3	16.1	19.4	...	100.0
前回回答構成比B	21.8	10.9	12.7	7.3	10.9	27.3	...	100.0
前回差(A-B)	▲ 4.1	6.8	▲ 3.0	4.0	5.2	▲ 7.9	...	0.0

2 意見 No. 3 関係

Q：1ページの「住みごころについて」、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と答えた20代が79.3%に対して、5ページの「今後も秋田市に住み続けたい」と答えた20代が56.4%と20ポイント程度の差がある要因は、市外に出なければならぬ学生か。

A：・本調査の全回答者1,507名のうち、20代の回答者は85名である。住みごころについての質問では、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と答えた20代は46名であったが、「無回答」の27名を全体の85名から除いた58名を分母として計算した結果、79.3%となった。

・一方、「秋田市に住み続けたいか」という設問では、「住み続けたい」、「事情が許せば住み続けたい」と答えた20代は48名であるが、無回答者が居なかったため、85名を分母として計算した結果、56.4%となったもの。

・このため、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と答えた20代の人数（46名）と、「住み続けたい」、「事情が許せば住み続けたい」と答えた20代の人数（48名）は、ほぼ同数である。

3 意見 No. 4 関係

Q：1 ページで 20 代の「住みやすい」と答えている割合が高い要因は、事業効果のほかに外的な要因があるのか、何か考えられるものがあれば説明してほしい。

A：・他の世代よりも数値が高い要因ははっきりしないが、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と答えた 20 代における分野別評価で評価の高い項目をみると、食や自然の豊かさなどの生活環境に関して魅力を感じている人が多い。

・また、20 代の全回答者でも、そうした分野において「よい」、「どちらかといえばよい」と回答した人の割合は、前回の調査と比較して大幅に高くなっている。

・分野別評価の前回差を年代別に比較した結果、20 代が他の年代よりも大きく改善したことが分かり、全体評価で 20 代が大きく改善したこととあわせて、この世代において、本市で暮らすことに対する意識の変化があった可能性がある。

▽20 代で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と答えた人における、分野別評価で「よい」、「どちらかといえばよい」との回答が多い項目

項目	回答数
食の安全安心	36
公園や緑地、街路樹など緑の豊かさ	33
まちなみなどの景観	23
大雨、地震など自然災害への安全性	20
ごみの収集・処理やリサイクルへの取り組み	20
健康診断や予防接種などの受けやすさ	18
スポーツ活動のしやすさ	17
⋮	⋮

▽上位 3 項目（「食の安全安心」、「公園や緑地、街路樹など緑の豊かさ」、「まちなみなどの景観」）について「よい」、「どちらかといえばよい」と回答した年代別の割合における前回差

(単位: %、%P)

項目	前回比較	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
食の安全安心	前回B	70.7	48.6	51.1	51.4	44.3	35.6	38.5
	今回A	84.6	70.6	60.7	57.1	52.9	50.7	39.0
	A-B	13.9	22.0	9.6	5.7	8.6	15.1	0.5
公園や緑地、街路樹など緑の豊かさ	前回B	61.6	51.5	53.4	50.0	41.8	37.8	40.3
	今回A	76.9	63.5	48.5	51.7	37.3	40.3	39.7
	A-B	15.3	12.0	▲ 4.9	1.7	▲ 4.5	2.5	▲ 0.6
まちなみなどの景観	前回B	40.0	24.8	19.4	23.1	18.9	14.4	22.9
	今回A	40.4	42.4	20.0	21.9	17.2	17.5	23.2
	A-B	0.4	17.6	0.6	▲ 1.2	▲ 1.7	3.1	0.3